

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー 2階ユニット		
所在地	〒690-0055 島根県松江市津田町313		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成22年12月17日

## 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

<p>当事業所の理念に基づき、安心と満足の居場所作りを目指し、健康管理を十分に行う。原田医院をはじめ、各かかりつけ医との連携を蜜に行い、いつまでも元気で明るく暮らして頂けるように努めている。</p>
---

## 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

<p>外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)</p>
---

## .サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ )+ (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を皆が常に目に触れる場所に掲げ、職員一同実践に努めている。	笑顔が一番・・・という理念を誰もが見える場所に掲げ実践に努めている。重度の方には部屋への出入りの度に声をかけするようにし、笑顔を消さないように心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との関わりは少ないが、町内会長様や近所の方々に運営推進会議に参加して頂き、繋がりが出来るよう努力している。	町の中心に位置していることから商店や会社が多く、地域との関わりがとりにくい状況があるが、運営推進会議等を利用して関わりを持つよう努力している様子が伺える。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習の場として、中学校、専門学校生の実習等、いつでも受け入れられるような体制にある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、現在の利用状況及び利用者、職員の活動報告等を行い、頂いた意見は、サービス検討会議等で話し合うようにしている。	奇数月に地域の方の参加を得て開催している。事前に案内をし内容も現状報告のみならず、在宅で今役立つ情報を提供したりと資料作りにも力を入れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で、サービスの取り組み等を伝え、ユーミー通信等定期的に配布するようにしている。	不明な点等、市の担当者に聞くなど、積極的に連絡を取り合っている。またユーミー通信を定期的に配布し施設の状況等を理解してもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が 指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心に、研修会・勉強会を開き、職員の意識を統一できるよう努めている。	身体拘束防止委員会で研修を重ね、職員一同身体拘束をしないケアを実践している。点滴などの際も終わるまで傍で手を握る形で対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に「高齢者虐待を考える」の事例集を利用し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に成年後見人を立てておられる方もおり、資料等を使い、制度のしくみを理解できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	契約時、重要事項については、ゆっくり説明するよう心がけており、説明した内容をご理解、了解して頂いた上でサインして頂くようにしている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自治会による意見を聞く場を設置しているが、普段からホールでの談笑の中でも意見・要望を聞くように努めている。	家族の意見は面会時に声がけすることでその都度聞くようにしている。利用者からは自治会の場で聞く機会を設けており、率直な意見要望が出されている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング、夜勤者会議、管理者・主任会議等で、それぞれの意見が出せるよう努めている。その他、意見ノートの活用もあり。	ミーティングや各種会議の場でも意見が出しやすいようにしている。月に1回夜勤者を交えた会議等でも業務改善に繋げた意見も出ている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スタッフミーティングへの参加及び、行事等でフラダンスショーをしたりする等して、コミュニケーションを図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けては支援体制あり。資格取得後は給与に反映されるシステムがある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加等で他事業所とのコミュニケーションを図り、情報交換をしている。同法人のグループホームとも連携を取り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接で多くの情報を得るように努め、本人が何を必要としているのか、何を不安に思っているのか把握し、安心できる環境を作るよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族の置かれている立場、現在不安に思っている事を十分理解できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、1ヵ月暫定ケアプランの立案し、同意を得てからサービス導入をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	療養ではなく暮らしであることを認識し、日常生活全般において、ひとり一人の不安や喜びに対し、共感し共鳴出来る関係作りをするようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ユーミー通信による近況報告を家族様に送付し、日々の生活の様子を把握して頂けるように努めている。		
20	⑧)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	友人や親戚の方の訪問時には、ゆっくり過ごせるよう配慮している。	知人、友人、親戚の方等訪問される方はあまり多くはないが、その際にはゆっくり話し過ごせるように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が集まれるホールに必ず担当者置き、利用者同士協力し合えるよう声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院された場合、状態を見ながら面会に行き、本人・家族の相談支援に努めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話し合う場面を多くし、本人の希望や意向の把握に努めている。	ケアマネージャーが一人ひとりの部屋を回り、希望要望を聞く機会を多く作っている。困難な場合も家族の意見を取り入れながら利用者本位を心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からプライバシーに配慮しながら、出来る限り情報収集が出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムの把握に努め、不穏時の分析を行い、取り組みを考えるよう努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを聞き、適時カンファレンスを開き、統一したプランでサービス提供に取り組んでいる。モニタリングを毎月行い、プラン見直しをしている。	担当者会議を開催し利用者、家族の意見要望を基にプランを作成しているが、毎月総合的な見直しを行い、より良いプランを目指している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、そのとき、どう関わったかを記録するようにしている。日々の変化、指示事項は申し送りですべて職員に伝わるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の診療所と連携を図り、突発的な受診等にも備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、町内会長様、民生委員様、地域包括支援センター様より情報、助言を頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医は継続して受診し、経過を見て頂き、併設の診療所医師とも連絡、相談をしながら行っている。	以前からのかかりつけ医は家族受診で継続し、必要時には受診の代行も行っている。また併設の診療所の医師とも連携が密で細かい指示を受けられる体制にある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お互いの連絡・報告・相談を密にし、異常の早期発見に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、必要に応じて情報提供を行い、関係者と相談しながら安心して治療でき、退院出来るよう働きかけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化及び終末期に対する当事業所の取り組み方を説明し、納得された上でサインをして頂くようにしている。	終末期の対応については、入所時にしっかりと説明を行い納得された形での契約になっているが、利用者家族の要望をできるだけ聞き、対応していく姿勢がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間及び施設長不在時の緊急マニュアルを見直し、連絡体制を整えている。消防署より緊急時の対応についての講習も随時受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を行っているが、周辺地域との支援体制がまだ整っておらず、構築中である。	消防署の協力を得て定期的な防災訓練を行っている。寝たきりの人の避難方法や夜間の対応などすぐに役立つ訓練を取り入れている。	職員だけの対応には限界があるため、段々と地域との関係作りを行うことで、災害時等の支援体制に繋がっていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する委員会を定期的に開いている。	不適切なケアにならないよう 研修を重ねたり、事例集などでの勉強会を繰り返し行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人がどう暮らしたいか、意向を確認したり、日常生活の中から本人の気持ちを察して、楽しく過ごせるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムは崩すことなく、気持ちは自由にゆっくり、穏やかに楽しく暮らせるように、職員はそっと寄り添うように関わりを持つよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は、一緒に服を選んだり、散髪の際は似合う髪形を話しながら行うなど、楽しみの部分が保てるよう努力している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部給食を利用しているが、行事のときは赤飯を炊くなど工夫をしている。	外部給食を利用しているが、盛り付け、お茶を入れる、食器拭きなどできることは手伝ってもらっている。ホットケーキパーティーなどおやつ作りも楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々に食事形態の工夫が必要で、介助方法も様々であるが、カンファレンスにて検討しながら実施している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアセミナーを受講し、正しい義歯の取り扱い方や歯磨きの仕方を学び、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の状態に合わせ援助を行っている。	個々の排泄パターンを把握しさりげない声かけ、見守りでトイレでの排泄を基本にしている。紙パンツ、パットも本人に合わせて利用を工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。水分量に注意し、おやつに野菜ジュース等も用意している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向に添うように入浴できるようにしている。	週2回を基本にしているが、本人の希望により回数、時間等には柔軟に対応しており毎日の人もある。皮膚トラブルのある人には毎日の足浴等で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活パターンを理解し、居室の環境を整え、気持ちよく入眠出来るよう援助している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用されている薬の作用・副作用を十分理解するように看護師を中心に対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を聞き、したいこと等あれば、一緒に出来るように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩等、体調や気候を見ながら行っている。	できるだけ本人の意向で買い物や散歩ができるように支援しているが、街中でもあり、外出には1対1の介助が必要なため、頻繁な形にはなりにくい。	短時間でも外出の機会を持つ形や、地域のボランティアや家族の協力などで、気軽に地域にでかけられるような支援を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談の上、所持可能ならば自己管理して頂いている。事業所預かりの方は、毎月収支報告し、買い物代行や院外処方費にあてている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば代筆を行い、電話も子機を使って居室で利用できる。携帯電話の所持も了解している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節ごとに壁を利用し飾りものをしたり、作品展示コーナーを作り活用している。テレビや音楽の音量は適度な音量とし不快にならないようにしている。	道路に面しているが音はほとんど気にならない。共有空間は明るく、壁には季節の飾り物や作品が展示してあり落ち着いた雰囲気がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファコーナーを作り利用して頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様を使い慣れた物を持って来て頂き、過ごしやすい空間作りに勤めている。	本人の意向で、使い慣れた置物、タンス、寝具等を持ち込み過ごしやすいように配慮されている。元々病室だが、各部屋共出窓があり明るく、好きな植物なども飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること、わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時、生活していくのに必要な事を説明し、見守りながら安全に暮らせるよう配慮している。エレベーターや階段の利用には特に注意している。		